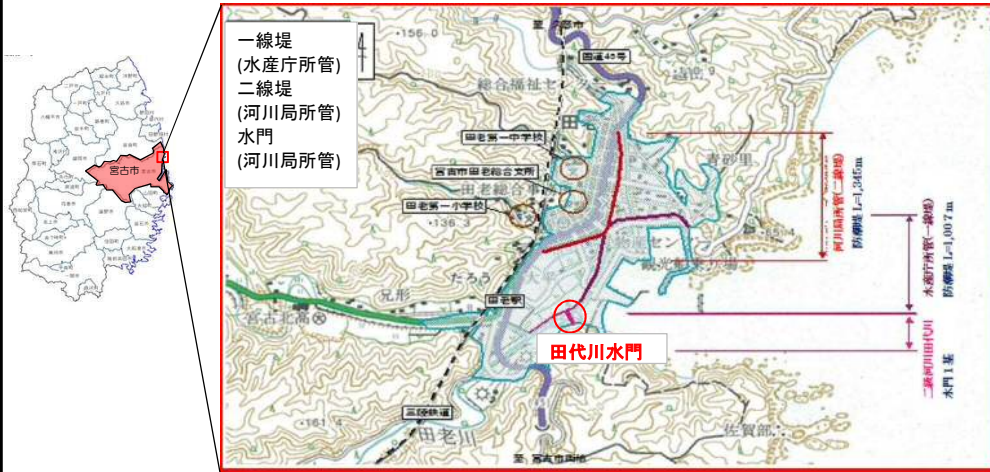


<二級河川田代川河川災害復旧工事 事業概要>

◆田老地区海岸の概要

- 田老地区海岸(旧田老町)は、昭和8年の三陸津波で町全体が流出するという被害を被っている。それに伴い昭和9年より堤防建設に着手し、昭和15年までに960m、更に昭和27年の十勝沖地震津波を契機とし、昭和29年より昭和33年までにL=1345.0mを完成した。(T.P.+10.0m)
- 東日本大地震により、田老地区は防潮堤高10.0mをはるかに越える約16.3mの津波に襲われ、海側の防潮堤の崩壊など地域の基盤となる施設についても甚大な被害が発生した。
- 田代川水門は、田老港の南側で第一線堤とつながる津波の防御水門であり、復旧に当り「岩手県津波技術専門委員会」での審議を経て、昭和三陸津波を設計対象津波として復旧高をT.P.+14.7mに決定し、津波の越流などによる被災に強く、ねばり強い構造の水門及び防潮堤として整備するものである。



◆復興まちづくり計画

- 宮古市東日本大震災地区復興まちづくり計画 (田老地区全体)
 - 田老地区の復興まちづくり計画の一環として第一線堤、第二線堤の整備
 - 田老地区土地区画整理事業(宮古市)
 - 防災集団移転促進事業(宮古市)
 災害区域に指定された範囲については高台移転を促進する。

田老海岸では、昭和三陸津波を設計対象津波として新計画堤防高(一線堤)をT.P.+14.7mと設定したため、一線堤につながる田代川水門も、カーテンウォール高さをT.P.+14.7mとして水門高を決定。



田代川水門完成予想図(田老川向地区)

◆被災状況

H23.3.11 東日本大震災に伴う大津波は、一線堤及び二線堤(T.P.+10.0m)及び田代川水門を越え、田老地区の堤内地側が甚大な被害を受けた。津波高さは、痕跡で最大T.P.+16.3m(岩手県調査)であったことが確認され広域地盤沈下が発生している。

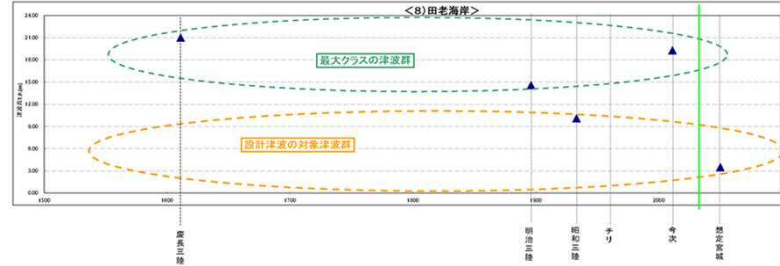


◆防潮堤嵩上げ計画

- H23.7.8付海岸関係省庁通知に基づき、以下の手順で計画堤防高を設定した。
 - 過去に発生した津波の中から設計対象波を選定。
 - せり上がりを考慮した津波の水位を算出し、設計津波の水位を算定。
 - 余裕高1.0mを加えた高さを新計画堤防高として設定。
- 「岩手県津波技術専門委員会」での審議を経て、田老海岸(田代川水門を含む)では新計画堤防高をT.P.+14.7mと設定し、第一線堤(水産庁所管堤防)を新規に嵩上げ復旧し、第一線堤に接続する田代川水門もT.P.+14.7mとする方針とした。

◆計画高の設定

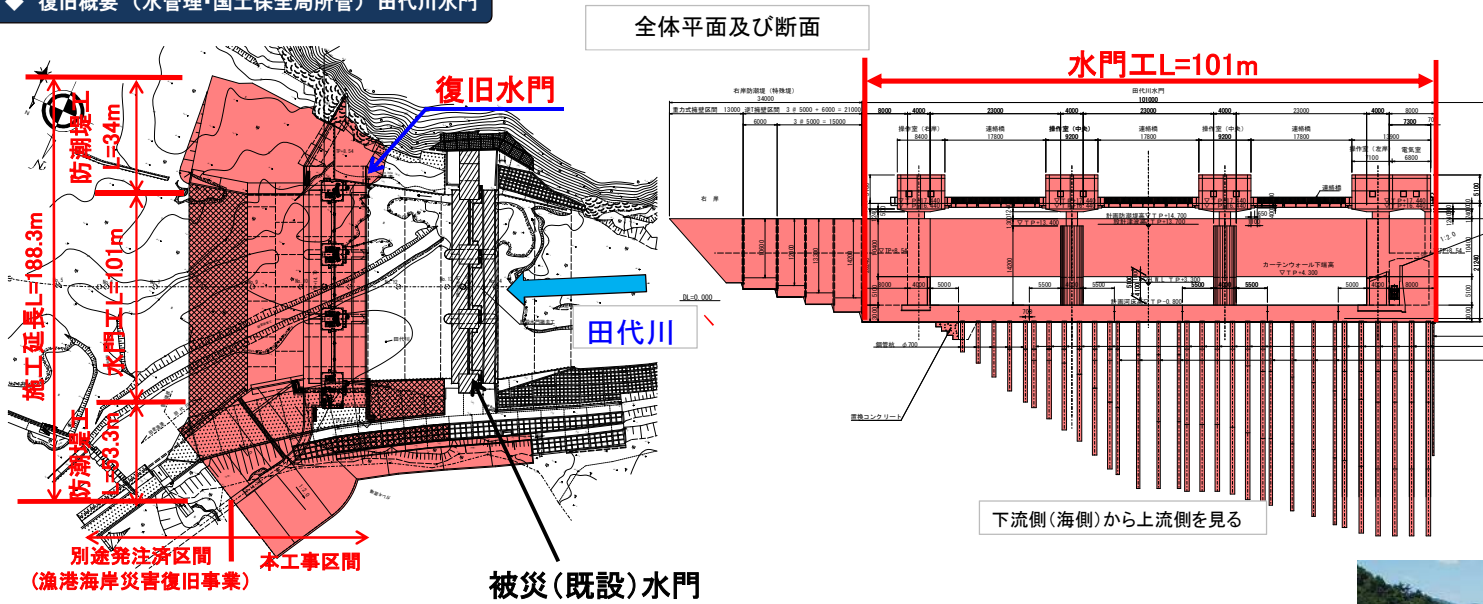
地域海岸名	今次津波 痕跡高	設計津波		【設計津波の水位による堤防高設定】 【被災前計画高】の チェック	地域海岸内 堤防高	被災前 計画堤防高
		対象津波	設計津波の 水位			
田老海岸	16.3	昭和三陸地震	13.7	14.7	14.7	10.0~13.7



単位:m(T.P.)

<二級河川田代川河川災害復旧工事 事業概要>

◆ 復旧概要 (水管理・国土保全局所管) 田代川水門

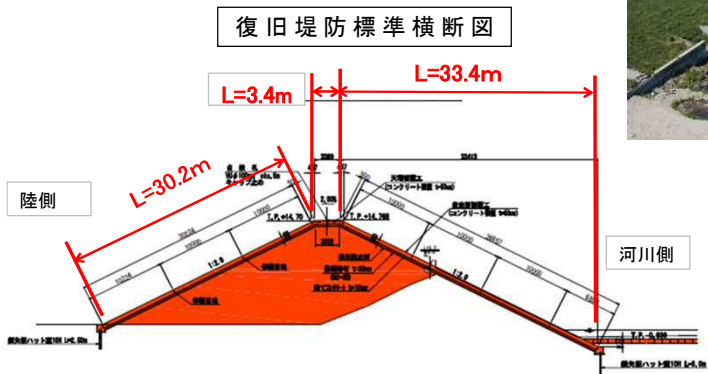


◆ 災害査定

工 事 名 : 二級河川田代川筋川向地区河川災害復旧(23災661号)水門工事
 決定額(工事費): 6,982,155千円
 工事概要 : 復旧延長 L=188.3m、水門工1式 防潮堤工 L=53.3m、機械設備工1式、水門管理橋1式、水門上屋工1式

◆ 事業工程

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
用地・設計	→							
右岸仮設工事		→						
右岸水門工事			→	→	→			
左岸仮設工事				→	→			
左岸水門工事						→	→	→



全景写真(下流側より)